

●●小・中学校の特別支援教育の推進●●

指導部主任指導主事 市川 裕二

現在、東京都では、東京都特別支援教育推進計画第三次実施計画に基づき、全ての小・中学校に「特別支援教室」を設置する構想の実現に向けモデル事業を進めています。この構想は、これまで情緒障害等通級指導学級に通って受けていた特別な指導を、専門性の高い教員による巡回指導体制の整備をすることにより、在籍校に設置された特別支援教室で受けられるようにするものです。

この構想に象徴されるように、これからの小・中学校における発達障害の児童・生徒への対応については、在籍校や在籍学級における支援体制の整備が重要となります。

小・中学校では、これまでにも、校内委員会の設置、特別支援教育コーディネーターの指名、個別の教育支援計画や個別指導計画に基づく指導と支援の充実など、特別支援教育推進体制の整備に努めてきました。今後は、こうした体制整備に加えて、各学校に「特別支援教室」を設置することにより、在籍校や在籍学級における支援を一層充実させていく必要があります。

都教育委員会は、東京都特別支援教育推進計画第三次実施計画において「全ての学校で実施する特別支援教育の推進」を計画策定の基本的な考え方の一つに掲げています。「全ての学校で実施する」とは「全ての教員が関わる」ということです。したがって、今や小・中学校の全ての教員には、発達障害の理解と指導に関する基礎的な知識・技能が求められているということです。

また、発達障害の児童・生徒が地域の中で健やかに成長していくためには、本人や保護者の努力のみならず、周囲の人々の理解と支援が不可欠です。この点において、「全ての学校で実施する」とは、「全ての人が関わる」ということでもあります。特別支援教育とは、現在と未来を担う全ての人々のための教育なのです。

目 次

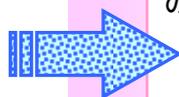
- 平成 25 年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」を終えて
調査結果の分析から授業改善へ 2 …………… 2
- 学校や家庭での振り返り学習の重要性について …………… 4
- 「理数教育の窓」ー 理数好きの子供たちを育てるために ー …………… 5
- 「道徳教育の窓」ー 東京の子供たちの豊かな心を育む ー …………… 6
- 「特別支援教育の窓」ー 全ての学校で実施する特別支援教育の推進を目指して ー …………… 7

東京都教育委員会ホームページ内に「学び応援ページ」というコーナーがあるのを御存じですか？

「学び応援ページ」には、各学校が、指導内容や指導方法等の工夫を通して、授業の改善・充実を図ることを応援するための、様々な事例集や報告書等を掲載しています。ぜひ、御覧いただき、参考にさせていただければと思います。なお、本通信のバックナンバーも、「学び応援ページ」に掲載しています。

（東京都教育委員会ホームページアドレス
<http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/>）

学び応援ページを御活用ください！



東京都教育委員会ホームページ・トップページ
の下の方に、このバナーがあります！



★ 本メール・マガジンの配信を希望する方は、件名に「メール・マガジン配信希望」、本文に所属・氏名を御入力いただき、S9000024@section.metro.tokyo.jp へメールを御送信ください。

平成 25 年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」

調査結果の分析から授業改善へ 2

前号では、「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の調査結果を基に、課題を抽出・分析し、授業改善へと反映させる取組を紹介しました。本号と次号とでは、授業改善の手だてについて、「短期的な取組」と「中・長期的な取組」の2つの視点から御紹介します。

短期的な授業改善の取組

抽出・分析された課題について、日々の授業の中ですぐに対応できるものについては、具体的な手だてを週ごとの指導計画に反映させ、即時的に実施していくことが大切です。

その際、「いつまでに」「何を」「どうするのか」の到達目標を明確にすることで、効果的な指導を計画・実施することができます。



Plan

週ごとの指導計画への反映の例（小学校）
【週ごとの指導計画を用いた手だての計画】

抽出・分析された課題を明示します。
到達目標を明確にして指導します。

		〇月〇日（月）	〇月△日（火）	〇月
【課題】①算数：位取りや数の相対的な大きさの把握 ②社会：都道府県の位置と名称、特色の理解				
【目標】①〇月中に全員が「兆」まで習得 ②今学期中に全員が全都道府県の名称と位置を理解				
●校時	計画	< 算数 > 「倍数と約数」 公倍数の求め方(1) 公倍数の求め方を考える ★①位取り復習小テスト	< 国語 > 「川とともに生きる」(読むこと) 筆者の意見を読み取る(2) ワークシート No.2 ★②本文中に出てくる都道府県の位置や特色を確認させる。	
	実施	・話し合いを基に公式を理解 ・練習問題全員終了 ・次回プリント提出 ★①全問正答 20人 / 35人 不正解最多…小数の位取り	・段落構成の整理 ・ワークシート全員終了 ・次回グループで意見交換 ★②神奈川県・新潟県・北海道について、地図帳で確認させた。	
■校時	計画	< 社会 > 「日本の工業生産」 自動車産業の特色(3) 海外との関係について調べる ★②都道府県復習小テスト	< 理科 > 「ふりこの運動」 おもりの重さやふりこの長さを変えるとどうなるか(実験) ★①長さや重さについて単位を変えて言い換えさせる。	
	実施	・ワークシート全員完成 ・次回の発表に向けて確認 ・ワークシート提出→次回返却 ★②全問正答 22人 / 35人 不正解最多…茨城県の位置	・仮説が立てられない児童がいた ・全員が結果を記録できた ・次回観察シート提出 ★①m と cm, kg と g について言い換えをさせた。ほぼ◎	
児童の ◎変容 ▲課題		◎ 算：求め方の話し合いよくできていた。 理：協力し真剣に実験に取り組んで ▲ 社：発表内容をまとめ終えていない児童がいる。 国：段落構成が理解でき ★ 位取りは理解が定着してきた。小数に課題。都道府県は関東地方について		

教科内での取組を計画し、実施後に到達度やより詳細な課題を確認します。

課題と直接関連のない単元においても、ドリル等を用いたり小テストに取り組みせたりして継続的に指導することが効果的です。

他の教科等で取り組めることを計画し、実施後に到達度や課題を確認します。

ちょっとした工夫で、課題のあった内容についての知識や技能を活用させることにより、確かな学力の定着を図ることが可能となります。

中学校においても、教科内だけでなく、教科の枠を超えて課題に対応していくことが大切です。そのために、各教科で抽出・分析された課題を一覧表にし、全ての教科等において手だてを考えていくことが重要です。



Do

週ごとの指導計画に基づく授業（手だて）の実施 【位取り・数の大小関係の小テストの実施】

位取り・数の大小関係をマスターしよう

学習した日 月 日 ()
() 組・氏名 ()

(1) 1億の10000倍の数は、です。
(位をあらわす部分を漢字で書きましょう。)
★マスター自信度 100 - 50 - 0

(2) 125億は、125万の倍の数です。
★マスター自信度 100 - 50 - 0

(3) 250は、0.25の倍の数です。
★マスター自信度 100 - 50 - 0

(4) 43000は、100を個集めた数です。
★マスター自信度 100 - 50 - 0

(5) 8.9は、0.01を個集めた数です。
★マスター自信度 100 - 50 - 0

- 課題のある内容に絞った小テストを、算数の授業の始め5分で実施します。
- さらに細かく課題を抽出できるように、小テストの出題を工夫します。
(例) 位の違う数
小数と整数
小数と小数 など

調査問題を活用した
小テストの例

他の教科等での 関連付けた指導

●理科の授業で・・・

今使ったおもりの重さは、1.5kgでした。グラムで表すと何gですか。
1.5kgの重さにするには、50gのおもりがいくつ必要ですか。

●社会の授業で・・・

日本の人口は、東京都の人口のおよそ何倍ですか。
東京の人口をおよそ何倍すると、インドの人口になりますか。

●体育の授業で・・・

校庭のトラック(200m)を何周走ったら、マラソン(42.195km)と同じ距離になりますか。
100mを10秒で走る人が、そのスピードでマラソンを走ったら、どれくらいの記録が出ますか。

●教室の掲示で・・・

〈何倍?何分の一?〉
1000
100
10
1
0.1
0.01
0.001

Check

「目標の達成」と「手だての効果」の検証 【小テストの結果の分析】

- 小テストの結果から、よりきめ細かく課題を抽出します。各問題の正答率をチェックし、特に課題のある内容を把握します。
- 個人票に各自で結果を記入させ、自分の課題を把握させることも必要です。どの程度定着しているかを自分で判断させ、課題意識や目的意識をもって学習に取り組ませることが大切です。

Action

検証結果の反映 【計画の見直し、次の小テストの作成・実施】

位取り・数の大小関係をマスターしよう

学習した日 月 日 ()
() 組・氏名 ()

(1) 250は、0.25の倍の数です。
★マスター自信度 100 - 50 - 0

(2) 8.9は、0.01を個集めた数です。
★マスター自信度 100 - 50 - 0

(3) 8.9は、1を個と、を9個集めた数です。
★マスター自信度 100 - 50 - 0

(4) 125は、0.125の倍の数です。
★マスター自信度 100 - 50 - 0

(5) 240は、0.8の倍の数です。
★マスター自信度 100 - 50 - 0

- よりきめ細かく抽出された課題について、さらに内容を絞って小テストを作成したり、復習させたりします。
- 「分かる・できるまでやる」という意識をもたせ、指導の徹底を図ることが大切です。
- 自分たちで問題を作らせたり、互いに出题させたりする活動も効果的です。

小数の数を扱った問題に
絞った小テストの例

短期的なPDCAサイクルを積み重ねることで、迅速にきめ細かく課題に対応することができます。
一つの課題について「重点月間」などを設けて指導することも効果的です。

課題の解決へ



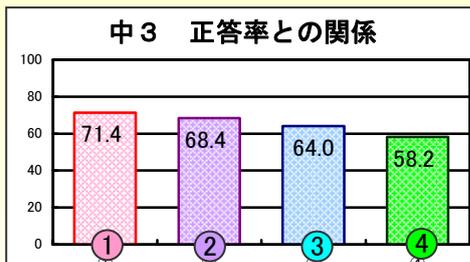
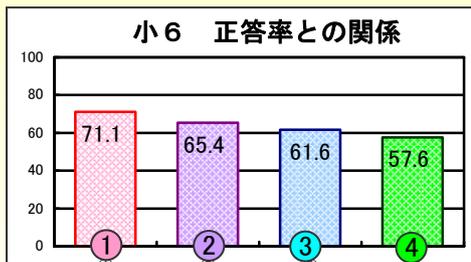
学校や家庭での振り返り学習の重要性について

平成25年度 全国学力・学習状況調査

◆児童・生徒質問紙調査結果から <東京都のデータ>

◇「家で、テストで間違えた問題について勉強していますか」という質問に対する児童・生徒の回答状況と、正答率[2教科平均]との関係

- ① している ② どちらかといえば、している
 ③ あまりしていない ④ 全くしていない ⑤ その他・無回答



◇「家で、テストで間違えた問題について勉強していますか」という質問に対する児童・生徒の回答状況の学力調査上位県との比較

	小6		中3	
	東京	上位県	東京	上位県
1 している	23.1%	38.8%	10.3%	24.4%
2 どちらかといえば、している	28.9%	38.4%	26.0%	41.0%
3 あまりしていない	29.9%	18.1%	38.2%	27.5%
4 全くしていない	17.7%	4.7%	24.9%	6.6%

! 児童・生徒質問紙調査の、「家で、テストで間違えた問題について勉強していますか」という質問に対する小学校6年生と中学校3年生の回答について、上段は「児童・生徒の回答状況と、正答率との関係」を表したグラフ、下段は児童・生徒の回答状況の、東京都と学力調査上位県との比較をした表です。

上段の「小6 正答率との関係」のグラフ、「中3 正答率との関係」のグラフに明らかとなり、家で、テストで間違えた問題について勉強している児童・生徒ほど、正答率が高くなっています。

下段の表からは、東京都を、全国で上位に位置している県と比べると、家で、テストで間違えた問題について勉強している児童・生徒の割合が、かなり低くなっていることが明らかです。

このグラフと表から、先生方はどのようなことを感じられますか？

家庭学習については、とすると、家庭や児童・生徒のせいになってしまいがちですが、学校での取組を見つめなおす必要があります。

全ての児童・生徒に学習内容がしっかり身に付くよう、まず、学力調査で間違えた問題にもう一度取り組ませて提出させるなど、学校として、全員が同じ問題で満点を取れることを目指すことが大切ではないでしょうか。さらに、間違えた箇所に関わる学習上のつまづきを克服できるよう、放課後などに徹底して繰り返し学習をさせたり、宿題を出して家庭学習をさせたりするなど、各学校が児童・生徒の学力向上を図る上で、責任ある取組を推進していくことが重要ではないでしょうか。

「理数教育の窓」 —理数好きの子供たちを育てるために—

理数フロンティア校の取組を紹介します！

東京都教育委員会は、各区市町村における理数教育の中核的な役割を担う学校として、都内の小学校 50 校・中学校 50 校を理数フロンティア校に指定しています。今回は、理数フロンティア校の取組の一部を紹介します。

効果的な教材や指導法の開発（例）

★ ホワイトボードを活用した話し合い（小学校）

観察、実験の予想や考察の場面におけるグループや学級全体での話し合いで、ホワイトボードを活用した。

→ 児童一人ひとりの考えがグループや学級で共有化しやすくなり、話し合いの内容が深まった。

★ 付箋紙を活用したプレゼンテーション（中学校）

生徒一人ひとりが「予想」や「実験から分かったこと」、「まとめ」をそれぞれ異なる色の付箋紙に記入するとともに、その付箋紙を記入用紙に貼り、グループや学級での説明の際に活用した。

→ 思考の過程が明確になるとともに、分かりやすい説明を行うことができた。

記入用紙の例

課題	予想（黄）	実験から分かったこと（青）	まとめ（赤）
（課題）	（付箋）	（付箋）	（付箋）

教員を対象とした研修会の開催（例）

★ 模擬授業の実施（中学校）

校内研修の中で、理科の担当以外の教員を生徒役にした模擬授業を実施した。

→ 生徒役として授業を受けた教員からの意見が理科の授業改善に役立った。

★ 研究団体との連携（小・中学校）

地区の小・中学校理科教育研究会と合同で研修会を実施した。小・中学校の教員で小グループを編成し、当日の研究授業についての協議や日頃の理科教育についての意見交換を行った。

→ 小・中学校の学習内容の接続や、小学校と中学校の学習を円滑につなげる方策などについて、理解を深めることができた。

理数教育地区公開講座の開催（例）

★ 近隣の大学OBによるワークショップ（小学校）

授業公開の後に、保護者や地域の方に理数フロンティア校の趣旨の説明を行うとともに、近隣の大学OBによる理科のワークショップを実施した。

→ ワークショップを通じて、科学に直接関わることで、保護者が理数教育について考えるきっかけとなった。

★ 参観者の体験コーナーの設置（小学校）

授業公開の際に、教室の後ろに観察や実験の道具を用意しておき、児童が行っている観察や実験を、参観者が自由に体験できるようにした。

→ 保護者が児童と同じ観察、実験を体験することによって、家庭で理科の授業が話題となった。

「道徳教育の窓」

— 東京の子供たちの豊かな心を育む —

道徳授業地区公開講座の取組を紹介いたします！

～学校、家庭、地域社会が一体となった道徳教育を推進するために！～

本年8月発行の「Scrum」第29号で御紹介したとおり、昨年度の道徳授業地区公開講座には、44万870人の方の参加がありました（過去最高）。参加者からは、「子供たちの素直な心に、感動した。」「自分自身の生き方について考えさせられた。」「担任の先生が、とても工夫して授業を行っていて子供の発言を引き出していた。」等の声を聞く一方で、「保護者への説明や資料が少ない。」「意見交換会は、発言を必ず求められそうで出席しにくい。」などの声も聞かれます。

そこで、今回は道徳授業地区公開講座での取組例を紹介いたします。

● 道徳の時間の授業公開について

（小学校）45分間の授業の流れを分かりやすく紹介

1年1組 主題名「だれにでも優しく」

- 資料名「はしのうえのおおかみ」
- 授業の展開
- 1 人に親切にされた経験を発表し合います。
- 2 資料を読んで話し合います。
 - ・小さい動物を通せんぼするオオカミは、どんな気持ちでしたか。……



道徳の時間の大きな流れと、授業のポイントを書いた指導案（略案）を、各教室で配布しています。

（中学校）家庭で話し合っほしい話題を紹介

- お子さんの「自分の好きなおところやいいところ」についてご家庭で話し合ってみてください。
- 礼儀は、みんなが気持ちよく生活するために欠くことのできないものです。礼儀作法の意味について、ぜひ、話し合ってみてください。
- 真心や思いやりの大切さについて、話し合ってみてください。 など



道徳の時間に学んだ内容を家庭でも話し合うことができるように、指導案の最後に家庭でも話し合っほしいことを紹介する欄を設けています。

● 意見交換会について

内容や保護者等への案内の工夫

保護者や地域の皆様

● Heart-warming Day ● 「心を豊かにする日」学校公開のお知らせ

本年も、道徳授業地区公開講座として「心を豊かにする日」学校公開を、下記のとおり実施いたします。全学級の道徳の授業を公開しますので、ぜひご参観ください。また、子供たちの豊かな心を育てていくために、大人としてどのように子供と向き合っていけばいいかについて、講演会等を行います。ぜひご参加ください。

参加への呼びかけの工夫「学校の先生とお話しませんか？」

保護者にとって、子供の担任以外の教員と話をする機会は少ないものです。また、地域関係者は、校長・副校長以外の教員と話をする機会は少ないでしょう。

そこで、ある学校では「先生とお話しませんか？」と呼びかけ、学校、家庭、地域による懇談会を開催しました。先生1人と5～6人の保護者・地域関係者が1つのグループになって行われた懇談会では、子供たちの豊かな心の育成についてたくさんの意見交換を行うことができました。



道徳授業地区公開講座の全学級の道徳の時間で「東京都道徳教育教材集」を活用した事例

- ◆ 全ての学級の道徳の時間の授業で、「東京都道徳教育教材集」を活用することを決定。
- ◆ 各学級担任が、指導する内容項目に基づき、副読本、「東京都道徳教育教材集」、「心のノート」を参考にして、中心資料と補助資料、指導過程について検討し決定。
- ◆ 全ての学級の道徳の時間の授業の、導入、展開、終末の適切な場面で「東京都道徳教育教材集」の各章の内容を活用。
- ◆ 意見交換会では、「東京都道徳教育教材集」の家庭での活用の推進を図るための講話を実施。



「特別支援教育の窓」

—全ての学校で実施する特別支援教育の推進を目指して—

キャリア教育の推進に向けて

発達障害の児童・生徒の自立と社会参加に向けて

新規採用後3年以内に離職した若年者の離職の理由

仕事上のストレス	29.7%
労働時間が長い	24.4%
職場の人間関係	22.2%
健康を損ねた	17.7%
企業理念に合わない	15.9%

複数回答による
(独立行政法人労働政策研究・研修機構資料より)

厚生労働省の別の調査によると、高等学校卒業後就職した人のうち、35%程度から49%程度の人が、就職後3年以内に離職しています。

離職した若年者の中には、発達障害を背景に抱える

ケースも含まれているものと推察されます。

発達障害のある人にとっては

- 職場の人と人間関係を築いて、その中でコミュニケーションを取りながら仕事を進めていくこと
- 自分の興味・関心や障害特性に合致しない職場で働くことは苦手であり、こうした状況が、離職につながる原因になるとも考えられます。

発達障害の児童・生徒の自立と社会参加に向けては、**小学校から高等学校までのつながりのある支援**の中で、**コミュニケーションの力**を高めること、**自分に合った仕事**に就けるよう支援を行うことが大切です。

小学校・中学校では何を大切にすればよいでしょうか

児童・生徒の年齢に合わせて、**人間関係形成能力**や**将来設計能力**を育て、**高等学校に支援をつないでいく**ことが大切です。

人間関係形成能力

自己理解を深め、他者を尊重する
コミュニケーション能力を高める

将来設計能力

自分に合った進路を考え、
実現するための計画を立てる

個別の教育支援計画を引継ぎ、
つながりのある支援を実施する

- 小学校では...
- 自分の好きなことを見付ける
 - 自分の興味・関心の幅を広げる
 - 自分の良いところを見付ける
 - 友達と協力して活動や学習に取り組む
 - 身近で働く人々の様子に興味・関心をもつ



- 中学校では...
- 自分の良さや個性が分かり、他者のことを尊重する
 - 他者と積極的に人間関係を築こうとする
 - 将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲を高める



高等学校への引継ぎ

**小学校から一貫したキャリア教育を進め
子供たちの自立と社会参加を支援していきましょう。**